落ち着いた学習環境づくりを基盤とした学力保障と仲間づくりの取組

倉敷市立琴浦西小学校

1 学校の現状と課題

本校は、日々の授業や全校集会など、落ち着いた雰囲気ではありませんでした。そこで、26年度から「岡山型学習指導のスタンダード」を基に、日々の授業改善を中心に、落ち着いた学習環境と仲間づくりに取り組みました。

2 取組の概要

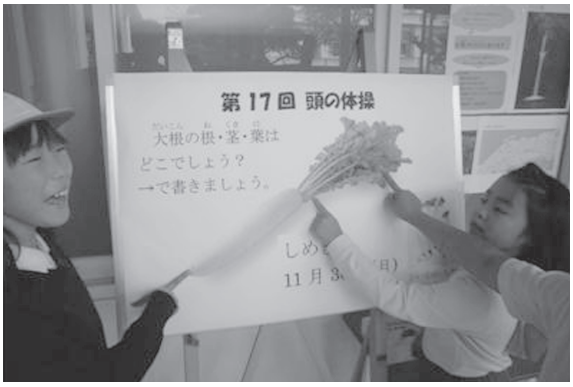
（1）落ち着いた学習環境づくり

○授業改善

一単位時間の授業５（ファイブ）を全校で統一して取り組みました。これらは週１回本校に派遣される授業改革推進員の業績が多大でした。毎回、担任による研究授業や推進員による師範授業などを通して、放課後にミニ研究協議を各学年で積み重ねていきました。

○頭の体操

校長室前にクイズを掲示し、正解者にはミニ賞状を出します。児童に様々なことに興味をもってもらうとともに、自力で調べる経験を積ませたいという願いから、校長の遊び心で始めました。国算社理など範囲は多岐にわたり、２年間で22回出題できました。



校長出題の“頭の体操”クイズの様子

○その他

・ノート表彰（学期に１回）

・姿勢・鉛筆の持ち方指導

「足ぺた！ぴん！」の学級掲示・教室前面掲示の精選

・中学校区の取組（琴チャレ）

☆ことにし４（フォー）レンジャーのやくそく

☆

１　下じきをしいて書こう。

２　線はまっすぐものさしで引く。

３　「めあて」と「まとめ」は赤で囲む。

４　正しいしせいで勉強しよう。（足ペタ）

５　右手をまっすぐ耳につけてあげよう。

６　呼ばれたら「はい！」と元気にへんじ。

７　話すときは →①聞き手の方を向いて

→②聞きやすい声の大きさで

→③ゆっくりと話そう。

８　「～だと思います。どうですか？」

９　話をしている人を見てだまって聞こう。

１０　くつばこには、かかとをそろえて置こう。

授業の約束“琴西フォーレンジャー”の様子

（2）仲間づくりの取組

○異年齢集団による年間を通じた縦割り班活動

○３泊４日の長期宿泊体験活動

寝床も食器も火も薪もない不便な条件下で、教師は手出し口出しせず、６年生児童はすべて野外炊事を行い、友達と協力して自力解決を行う。

3 成果と今後の課題

板書には「めあて・自力解決・まとめ・振り返り」の跡がどの学級でも見られます。児童は授業の流れが分かり見通しをもてるようになってきました。そして次第に学校全体が落ち着いてきました。これらの成果が、学力向上へと反映されるかどうかが楽しみです。

校長出題の頭の体操クイズは、毎回１００人以上の児童が参加しています。中には家族と一緒に頭をひねっている児童もいます。家庭学習の充実にちょっぴり寄与しているようです。

（前年度校長　眞鍋　洋三）

落ち着いた学習環境づくりによる学力向上の取組

美作市立美作第一小学校

1　はじめに

本校は、児童数247名、通常学級8学級、特別支援学級4学級の学校規模である。

問題行動が多く発生するなど、落ち着いた学習環境に課題があり学力の定着状況が十分でない児童が多かった。

2　取組の概要

(1) 地域の教育力の活用

研修時間や子どもと向き合う時間が欲しいとの願いから、地域の力を借りる事にした。平成24年度から学校支援地域本部事業を始めた。登下校の見守りや校庭の草刈りなどの環境整備をはじめ、家庭科の学習支援や花植など児童との交流を大切にした活動を行っている。

(2) 生徒指導の充実

・たぶん大丈夫が危機を招く
・不安がよぎれば即行動
・迅速即日解決
・不登校3日までの対応

など、全職員が危機の感性を高めて、徹底して取り組んだ。初期対応を丁寧にすることも徹底した。

(3) 「あいさつ・返事・靴そろえ」と学習規律「一小スタンダード」の徹底

一日の始まりは、気持ちのよいあいさつから。児童会を中心に、毎朝、登校して来る児童をあいさつタッチをしながら迎える。保護者や地域の協力を得てあいさつ運動を繰り広げている。

岡山型学習指導のスタンダードを活用し、全ての学級で「一小スタンダード」を実践し、子どもの視点に立った学習規律を徹底した。

「あいさつタッチ」をしながら迎えるあいさつ運動

靴のそろった下駄箱

(4) 基礎基本の確実な定着

・チャレンジタイムや補充学習
・学ぶ意欲を高める学びの定期便全学級チャレンジ
・2学年前からの学び直し

(5) 読書活動の推進

・チャレンジタイムの全校読書
・家族読書や読み聞かせの充実
・読書意欲を高めるカードの工夫による読書量の確保

(6) 算数科の授業改善

・岡山型学習スタンダードに沿った「めあて・まとめ・振り返り」のある授業や、書く活動の徹底

(7) 家庭学習の充実

・明日の授業につながる予習と、できる宿題
・時間の確保と内容の充実
・意欲の高まるカードの工夫と家庭への啓発

3　おわりに

本校は、どこの学校でもなされている取組を全職員で徹底した。地域からの種々のご支援ご協力に感謝している。「落ち着いた時こそ危機意識を高めて。油断大敵、崩れるのは一瞬」を合い言葉に、今後も、地域と共に歩む学校を目指していきたい。

（前年度校長　安東　いづみ）

学力向上に向けたPDCAサイクルの構築と実践の取組

真庭市立遷喬小学校

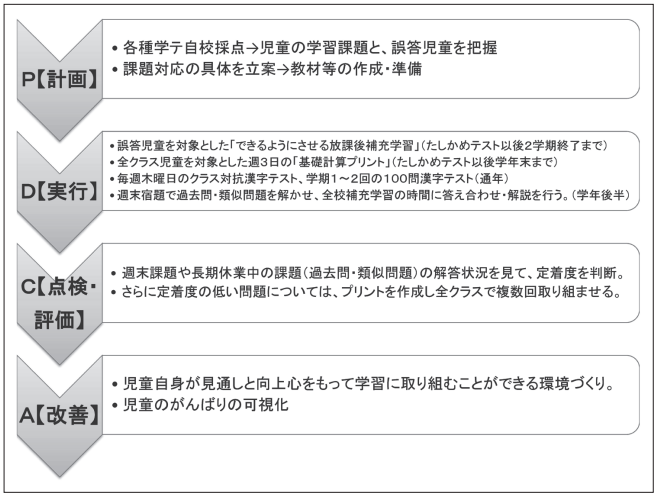
1　学校の現状と課題

本校は創立142年の歴史を誇る地域の期待も高い学校です。県下でも有数のオープンスクールで、児童数も真庭市内最大規模となっています。しかしながら、全国学力・学習状況調査結果によると、平成20年度以降全国平均値を割り込み、学力向上とともに生徒指導上の諸問題解決が喫緊の課題となっていました。

2　取組の概要

（1）学力向上対策

平成26年度の5年生では、各種学力検査後に直ちに自校採点を行い、正答率の低い設問を把握するとともに、特にたしかめテストにおいては、基礎問題でどの児童がどの設問を誤答したかまで調査しました。その後、図のように徹底した課題対応を行いました。学年フロアには、どのクラスがいつ補充学習を行うのか等を記したスケジュール表、クラス対抗漢字テストの平均点推移グラフ、優れた自主勉強ノートのコピー等を常に掲示するなどして、児童のがんばりを可視化するとともに、見通しをもって学習に臨むことができるようにしました。



（2）校内研修の充実

本校は、平成26・27年度、「魅力ある授業づくり徹底事業」により、定期的に津山教育事務所や真庭市教育委員会から授業改善の指導訪問を受ける機会に恵まれました。その中で、「岡山型学習指導のスタンダード」が教員に周知され、特に算数科においては「授業5」に基づく授業の流れが徹底されました。加えて「学年研」と呼ばれる学年団会議で教材研究や教材作成を行うことで、授業者間の「ムラ」が解消され、どのクラスにおいても市販テストで9割以上の平均点を出すことができるようになりました。

さらに、夏季休業中の「全国学テ」研修や学力分析官招聘（しょうへい）による研修内容を基に、「割合」などの重点単元への指導も学年内で統一して取り組むことができました。

3　成果

平成26年度、5年団を中心に行った学力向上対策は、平成27年度4月の「全国学テ」で一定の成果を上げることができました。

しかしながら最大の成果は、学力調査に対する職員の意識変容ではないかと思っています。事前に「学テ対応方針」を立案し、主任会を経て職員会議で確認し、全学年で共通した取組が実行されるようにしたことで、次第に「早期の学習課題対応」への理解が広がりつつあるように感じます。

また、週末課題として過去問や類似問題に取り組ませ、その解説を全校補充学習「スイスイタイム」に行うという学習サイクルを、平成27年度は全学年で実働させることができました。

「スイスイタイム」の様子

4　今後の更なる取組の充実

従来、各学年団独自で行っていた学力向上対策を、平成27年度はいくつかの項目について全学年で統一して実施することができました。本校は、複数学級からなる学年団構成で、他の学年団の動きが見えにくいと言われていますが、成果の上がった取組が他の学年団へ伝播していくよう、今後も主任会等での情報交換・進捗状況の確認を大切に進めていきたいと考えています。

（校長　加藤 善久）

生徒会を中心とし、保護者や地域関係機関と連携した取組

岡山市立操南中学校

1 はじめに

本校は、岡山市街地南方に位置し、農村地域から中小工業地域、住宅地域へと変わり、人口が急激に増加しています。生徒数も、昭和61年富山中学校と分離した直後は減少したものの、その後再び増加に転じ、現在は783名、学級数は27となっています。

生徒数増加とともに、暴力行為や器物損壊、いじめや不登校の件数も増え、授業放棄や妨害を繰り返す生徒も多く見られるようになってきました。また、基礎学力に課題のある生徒、メディアコントロールができない生徒、特別な支援を必要とする生徒も多く、それらの指導の充実が課題となっていました。

2 取組の概要

(1) 生徒会活動の活性化

生徒会が東日本大震災の被災地を訪問したり、岡山中央署及び管内の中学校と連携して岡山市街地の落書き消しを行ったりするなど、積極的にボランティア活動に参加することを支援しました。また、体育祭や操南祭（文化祭）においても、3年生を中心に生徒が活躍する機会を増やしていきました。これらの活動を通じ、上級生がよい手本を示し、下級生がその姿を目標にするという、よい伝統ができようとしています。

岡山市街の落書きを消している様子

(2) 保護者や地域、関係機関との連携

地域では、中学生が活躍する場を数多く提供してくださっており、ボランティア活動に参加する生徒は年々増加しています。この活動に参加することにより、生徒たちは地域の一員としての自覚と、いつも地域の方々から見守られている安心感を抱くことができています。これらの繋がりから、地域の方々からあいさつする生徒が増えているとの声が聞かれるようになってきました。

栄養バランスについて生徒が考えている様子

また、文科省から「スーパー食育スクール」の指定を受け、地域と連携して生徒に自らの生活を見直す機会を与えることで、より良い食習慣・生活習慣を身に付けさせることを目標にしました。その結果、家庭や地域を巻き込んだ生活改善の取り組みが実現でき、地域との絆も深まりました。

さらに、学校警察連絡室の方々が、毎日学校を訪問してくださる際に、授業放棄をしている生徒たちに温かい声かけをいただくことで、よい人間関係が構築され、喫煙等の問題行動が減少しました。

3 おわりに

平成27年度の「教育に関する総合調査」では、前年度と比較して生徒・保護者とも、多くの項目で肯定的な回答が増えていることがわかりました。中でも、生徒では「先生に認められていると感じる」、保護者では「子どもが学校に行くことを楽しみにしている」の項目で高いポイントを示しました。生徒たちの頑張りを認めていくことが、自己肯定感を高め、生徒たちが持つ良い面を引き出していくのだと感じました。

（校長　正保　雄策）

貢献し信頼される学校づくりの取組

赤磐市立磐梨中学校

1　はじめに

本校は、生徒数152名（平成27年度）の小規模校です。学区内に3小学校があり、平成の大合併の際に学区内の小学校が進学先の選択が可能になったため生徒数が大きく減少して現在に至っています。

ここ数年の本校の課題は概ね次の通りです。

・不登校生徒やいじめ課題が多く非行傾向の生徒も存在した。

・地域との結びつきが弱く、外部からの協力が積極的には得られない状況であった。

2　取組の概要

そこで、これらの課題解決に向けて、次のような取組を順次進めてきました。

①発達障がいの視点を持ち「どんな理由があろうとも、決して排除という方法は取らない」と宣言して取り組む磐梨型インクルーシブ教育。

②インクルーシブ教育と認知心理学を基盤とし、グループ学習を中心に据え、「分かりやすさ」「特別な支援」「グループ学習」「学力向上」の部会で研究を進め実践する「磐梨型学習指導のスタンダード」。

磐梨型インクルーシブに基づいたグループ学習の様子

③将来にわたって健康に生活するための体づくり、体力づくりとして、補食を含んだ食育。スポーツテストの2回実施、2ヶ月毎の身体測定、夏休みに実施する「こつこつ運動」「しっかり朝食」活動を実施する「磐梨ゴールデンプラン」

朝の会後に補食を摂っている様子

④開かれた学校づくりの一環とし地域と強力に連携して行う大型文化祭である「磐梨感謝祭」。

⑤学習支援、環境支援、見守り支援の3分野で地域の教育力の活用を図る学校支援ボランティアの「磐梨スマイルサポート」。

これらの取組の結果、学校は落ち着きを取り戻し、全国学力調査でも全国平均を上回る効果が出てきました。また、部活動でも県大会で好成績を収める部も複数出ています。

3　おわりに

生徒の成長は、常に他者との関わりの中で育まれます。仲間づくりを支えるインクルーシブ教育と、学校づくりを支える地域教育力や家庭教育力は学校経営にはなくてはならないものです。今回の実践を核として、これからも地域に愛され、社会に貢献できる生徒の育成を力強く進めていきたいと思います。

（前年度校長　田上　善朗）